



こんなとき、 どうする・どうしたQ&A

私
お答えします。



Q 「もう字が読めるようになったから自分で読みなさい」と
言ってよいのでしょうか。

A 子どもが望む間は読みましょう
字が読めることと、おはなしがわかることは別のことです
(11 ページ参照)。
子どもでも、大人でも、耳でおはなしを聞くことはここち
よい体験です。子どもが望む間は読み聞かせを続けましょう。



Q 落ち着きがなく、読み聞かせを続けられないのですが、
どうしたらよいのでしょうか。

A 気長に挑戦しましょう
子どもが小さい頃は、なかなかおはなしを聞いてくれない
ことがあります。
子どもが気に入った絵を見たり、おしゃべりをしたりして、
少しずつ絵本に親しませましょう。
子どもが興味・関心を持ちはじめると、少しずつ見てくれ
るようになります。



表紙が見えるように絵本をおくと、
子どもが興味・関心を持ちやすくなります。

Q 同じ絵本ばかりを読みたがりますが、このままでよいのでしょうか。

A 心配はいりません
お気に入りの絵本ができることはすばらしいことです。
子どもが満足のいくまで何度でも楽しむと、興味・関心は
うつつていきます。気になるようでしたら、好きなページや
場面から、少しずつジャンルを広げてみてはいかがでしょうか。



さっき見た月と
いっしょだー

Q 障害のある子どもが絵本を楽しむには…

A さまざまなタイプの絵本があります
布の絵本やさわる絵本、点字絵本、CD 絵本など、さまざま
なタイプがあります。読み聞かせは子どもの成長の力とな
りますので、ぜひ子どもにあった絵本をさがしてみてください。
その際、たとえば図書館や、都道府県・市区町村にある
社会福祉協議会に相談するとよいでしょう。



Q わが家では本を読む習慣がありませんが、子どもに影響することはありますか。

A 子どもといっしょに習慣をつくってみませんか
ある調査*によれば、小学校1年生の時点で、お父さんや
お母さんが本を読まない家庭の子どもは本を読まない、お母
さんがよく読み聞かせをしている子どもは本をよく読む、と
いう傾向が見られました。家族の読書習慣などが子どもの読
書に影響を与えることもあるかもしれませんが、子どもが興
味・関心を持ったときに、その子にとって本と出会う最適
期です。読み聞かせを通して、今からでも子どもといっしょ
に本に親しんでみてはいかがでしょうか。



*「第7回21世紀出生児縦断調査(平成20年)」厚生労働省

Q 仕事や家事に追われ、読み聞かせをする時間がとれないのですが、
どうすればよいのでしょうか。

A 家族のライフスタイルにあわせてはいかがでしょうか
読み聞かせをする曜日や時間を決めておくと、負担なく気
軽にできます。出勤前、お昼寝の前、食事の後、お風呂上が
り、寝る前など、できる時間をさがしてみましょう。
また、子どもが「よんで」といったときに、つつい忙し
く「あとでね」と言ってしまうがちです。今すぐは無理かも
知れませんが、そのあとにできるだけ、読んであげましょう。



Q 子どもが3歳になりますが読み聞かせをしてきませんでした、
今からでもよいのでしょうか。

A 何歳からでも安心してはじめてください
読み聞かせを続けているうちに、子どもが成長し、興味・関心が広がったり、
情緒が豊かになったりしていく様子を実感できるようになっていきます。



これ
なあに?

